

Funehiki High School News vol.145

~がんばる船高生~ **ATTENTION!** 第25回 美術部のみなさん

本校の美術部は、毎年8月に行われる田村市五大夏祭りの一つ、「灯籠流しと花火大会」に灯籠を制作し参加しています。今年の制作チームの中心となって活躍している副部長の吉田大希さん（大越中出身）と、石井萌さん（常葉中出身）、吉田隼さん（大越中出身）の3人に話を聞きました。

— 今年の灯籠のテーマについて教えてください。

（大希さん） 今年のテーマは「令和～新時代の幕明け～」です。

夏休み前に話し合いでいくつか案を出し、その中から元号を発表する菅官房長官と国会議事堂のデザインを投票で決めました。デザインをしたのは私です。

（石井さん） 人の体は曲線が多く、難しそうだなと思いました。昨年までは灯籠の骨格に竹ひごを使っていましたが、今年は細かい曲線が表現できるように、針金を使っています。

（隼さん） テーマを決めたときには、作ることで考えていっていませんでしたが、作り始めて人物も建物も複雑なデザインで、期日までに制作が間に合うかなと心配です。

— 灯籠作成から2年生が中心となって活動していくそうですが、意気込みはどうですか？

（大希さん） 昨年は先輩に指示されて作業していましたが、今度は自分たちが何とかしなければと感じています。今年の灯籠は横2.5m、縦1.5mほどで去年より大きく、複雑になる予定です。その分、大きな達成感が得られるのではないかと期待があります。

— 船引高校として灯籠流しに参加することにはどんな意味があると思いますか？

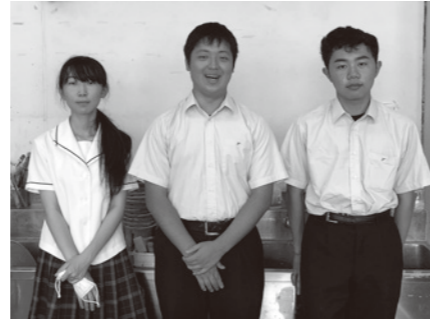
（隼さん） 船高をPRする手段になっていると思います。

（大希さん） 地域の方に船高は文化部も頑張っていると伝えられる良い機会だと思います。

— 来年度の灯籠作成について、1年生に伝えたいことはありますか？

（石井さん） 1年生の中には中学校で灯籠をつくったことのある部員もいるので心強いです。経験を生かして、さらによりよい作品に仕上げたいと思います。

（大希さん） 灯籠制作は船高美術部の伝統となっていると思うので、新入部員を引っ張って、年々素晴らしいものになるように作ってほしいと思います。



▲左から石井萌さん、吉田大希さん、吉田隼さん



◆体験入学



7月31日、中学生の体験入学を実施しました。学校概要説明の後、生徒の体験発表としてデュアル実習、船高アクティブラーダー活動、ドローン科学探究部、よさこい部による活動報告が行われました。また、公開文化祭（鵬翼祭）への来場を実行委員長が呼び掛けました。その後の、体験授業や各部活動の体験入部では、在校生と中学生が一緒に生き生きと活動する姿が見られました。

来年度は「チーム船引」の先輩後輩として共に活躍できるようお持ちしています。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

楽しい時



John Brandt
ジョン・ブランドンさん
(アメリカ合衆国
ミズーリ州出身)
田村市に来て4年目

おそらく日本とは違うと思いますが、アメリカではキャンパファイアーの周りで、互いに物語を話す長い伝統があります。世界のどこでも、よい物語は重要なもので、私たちが笑わせ、泣かせ、時には感動させたりする楽しさを提供してくれます。今日、キャンパファイアーの周りで物語が語られることはなくなっていますが、その代わりに本、映画、テレビゲームなどを通して、私たちは数百の物語に毎日接することができます。

しかし、そうした物語には今、重大な問題があります。多くの人々がたくさんの物語を楽しみたいと思っていて、今ある物語よりさらに多く、新しいものを求めるので、複雑な物語がたくさん提供されるようになってしまいました。物語が複雑な原因は、作家にすぐれた物語を書くための十分な時間が与えられていないか。つまり、私たちに必要なたちには作家な時間を与える「忍耐強さ」が求められているのでないでしょうか。



海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 74



Tim Case
ティム・ケイスさん
(アメリカ合衆国
ニューメキシコ州出身)
田村市に来て1年目

昨年からは夏休みに常葉町のスイカパレスで行われている「イングリッシュ・キャンプ」に、市内の中学生約20人が参加しました。このキャンプは、中学生が英語を使う環境の中で互いに関わり合いながら、二日間の生活体験をするものです。キャンプの間、中学生は講義を聞いたり、先輩リーダー達と英語で話すことを求められます。



また、さまざまな活動を英語で楽しく行うので、みんなとても活発になります。キャンプはきつく感じる面があるかもしれませんが、生徒達が英語にどっぷり浸るすばらしい機会になっています。今年度のキャンプは、「セカクル」という20代のバイリンガル（二カ国語を話す人）のグループが、私たち外国人英語指導助手と協力して活動し、とても良かったと思います。私たちが掲げた今年度のテーマは、「Overcoming Your Fears」(自分の恐れに打ち勝とう)でした。英語の苦学意識に打ち勝てば、学習の目標に向かって進むことができるのではないのでしょうか。

キャンプではさまざまな楽しいゲームをする機会があり、私が一番好きなゲームは「寸劇」でした。生徒達は、自分の恐れに打ち勝つというテーマで英語の寸劇を計画して演じました。

私は毎年、このキャンプを楽しんでいます。外国人英語指導助手にとって中学生と話したり、心のつながりを深くすることができずばらしい時間です。また、このキャンプは生徒達を英語に積極的に向かわせ、英語を話す人たちが周りにいても緊張しないようになるための助けになります。生徒達は、キャンプの間とても活動的でした。来年のキャンプでまた多くの中学生に会えることを楽しみにしています。